新潟市新津美術館　2014 年度コレクション展Ⅳ

メタルズ！「金属造形と新潟」

―新津美術館収蔵品から―

会期　2015 年 1 月 4 日（日）～　3 月 8 日（日）

新潟県は、全国でも金工の優れた作家を多く輩出しています。燕などでは現在においても主要な産業のひとつとして、世界に名が知られています。また、新津美術館裏の金津丘陵は、古代の製鉄遺跡で、金属とは縁が深い地域です。1 月 24 日から開催の「メタルズ！　変容する金属の美」展は、全国でも金属にゆかりの地域で開催している企画展です。これにあわせ、当館所蔵品と預かり作品の中から、新潟出身作家または新潟に伝来した金属造形作品をご紹介します。金属による彫刻作品、金属工芸作品の造形の美をお楽しみください。

亀倉蒲舟　かめくら ほしゅう（1907-1998）粟生津村(現燕市)に生まれる。小川英鳳に師事。1940 年新潟に疎開後留まる。帝展・文展後に日展・現代工芸展に出品。受賞多数。1994 年文部大臣表彰を受ける。

亀倉康之　かめくら やすゆき（1934-2012）亀倉蒲舟の長男として東京都に生まれる。1940 年 9 歳の時黒埼村(現新潟市)に疎開。1959 年東京芸術大学卒業後新潟へ戻る。日展・日本新工芸会展にて多数受賞。

羽下修三　はが しゅうぞう（1891-1975）川内村(現村松町)に生まれる。1916 年東京美術学校入学。高村光雲、北村西望らに指導を受ける。1927 年から同校で教鞭を取る。1945 年疎開を機に五泉にアトリエを築く。

戸張公晴　とばり こうせい（1939-）ソウルに生まれる。1963 年新潟大学教育学部芸能学科彫塑科卒業。日本彫刻会展、日展で活躍。県立新潟女子短期大学等で教鞭をとりながら制作を続ける。2014 年 12 月地域文化功労者表彰に選ばれる。

名越弥五郎(昌晴)　なごし やごろう（まさはる）（1830-1911）本名小幡仁之助。江戸時代初期の釜師。江戸名越家十代として徳川幕府の御釜師を務める。1859 年八代昌孝の著『鋳家系』の改正増補し印行した。

四代 玉川覚平　たまがわ かくべい（不詳：明治～昭和）帝室技芸員の海野勝珉に入門後、東京美術学校卒業。燕の四代玉川堂として、着色技術、形状の近代化、多様化を図り、芸術的発展にも貢献した。

四代 本間琢斎　ほんま たくさい（1893-没年不詳）蝋型鋳金の本間琢斎(3 代)の長子として佐渡に生まれる。東京美術学校卒業後、四代を襲名。技術継承に新たな傾向を取り入れた。佐渡で初の胸像の制作を行う。

北原千鹿　きたはら せんろく（1887-1951）大正・昭和期の彫金家。香川県生れ。東京美術学校卒業。新工芸研究会「无型（むけい）」同人。帝展の工芸部門設立運動や工人社設立など日本工芸界の発展に尽力した。

作者	作品名	制作年	材質・技法等
亀倉蒲舟	塔	1974(昭和 49)年	鋳金(銅)
亀倉蒲舟	塔（薬師寺）	1989(平成元)年	鋳金(銅)
亀倉蒲舟	供養頌	1987(昭和 62)年	鋳金(銅)
亀倉康之	林	1959(昭和 34)年	彫鋳金(銅)
羽下修三	石崎清助氏像	1941(昭和 16)年	彫塑(鋳造銅)
戸張公晴	ＡＬＣＡＳＴ	1977(昭和 52)年	彫刻(アルミニウム)
名越弥五郎(昌晴)	霾首形銀急須	1894(明治 27)年	鋳金(銅)
四代 玉川覚平	金古色鎚目模様菓子器	昭和前期	鎚起銅器
四代 本間琢斎	茶托　五客	1942(昭和 17)年頃	蝋型鋳銅
北原千鹿	鳥魚銅印紐	1933 年(昭和 8)年頃	彫金(銅)